

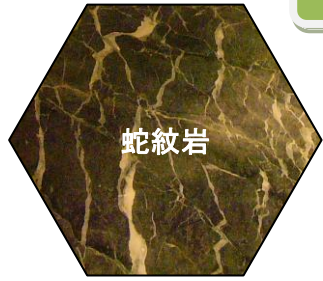
編集・発行
宮津美しさ探検隊
第76号/隔月刊
2012年1月20日

どきどき

宮津美しさ探検隊事務局
〒626-0012
宮津市字浜町 3006
ぶらりんぐセンター内
Tel 0772-20-2007
<http://www.city.miyazu.kyoto.jp/~kikaku/dokodoko/index.html>

宮津ジオパーク①

杉山の岩石は 珍しい蛇紋岩



蛇紋岩

上宮津の東側にある杉山は、標高六九七メートルですが、その山容にはどっしりとした貫禄があり、稜線には麓からでも一本一本を識別できるほどの天然杉の大木がある美しい山です。
杉山を含む大江山連峰は、その姿だけでなく地質にも大変貴重な価値があります。その理由の一つが「大江山オフィオライト」と呼ばれる岩体で、大江山から兵庫県養父市にかけて分布しています。この岩体の主な地質は、地下数十キロという大変深い所(上部マントル)を構成するカラン岩を主体とします。

各戸配布

カラン岩はカンラン石を主体とした黒色の岩石ですが、地下での熱水的作用によって蛇紋岩に変化しています。この蛇紋岩は緑から青味を帯びて表面がツルツルした感じになります。宮津では蛇紋岩を庭石や石垣に使ったお宅を見かけることがあります。また普甲峠を南に下った中の茶屋では、鉱物が繊維状になった珍しい深緑色の繊維状蛇紋岩が見られ、大江山スキー場のリフト乗り場付近には、輝石からなる輝石岩も見られます。地元では見慣れたカラン岩(蛇紋岩)は、実は珍しい岩石なのです。
大江山の岩石が貴重なもう一つの理由は、その岩石が出来た時代です。大江山の岩石は地下深くで出ません。以前から古い時代とは考えられてきました。近年、放射性同位元素を用いた測定で、約四億七千万年前(古生代オルドビス紀)であることが明らかになりました。日本列島の岩石の中では、非常に古いものなのです。この時代は、まだ日本列島はなく、生物の多くは海中で生活していたと考えられています。大江山のこの岩石は近畿地方では最も古い岩石と言えます。



杉山で勉強中のエコツアーガイド ★植物・動物・地質・歴史・文化など「地域の宝を丸ごと」学びます

(藤村 孝信)

★お知らせ★

節分の日・厄払い『七つの鳥居をくぐらんならん』

(7つの神社と経王寺へお参りをします)

- 日時 2月3日(金) 12:50~15:30
- 参加費 会員外 300円 (保険代)
- 集合 ぶらりんぐセンター
- 持ち物 雨具、歩きやすい服装で
- 申込は前日18時までに 宮津美しさ探検隊事務局 Tel 0772-20-2007 まで



滝上山く妙見山く題目山

いつも市内から見上げている、宮津と須津の堺の山が妙見山でした。題目山の登山道である古い尾根道を、整備して下さった題目山案内人浅田武尚さん達有志が、今度は滝上山く妙見山く題目山のルートを整備してくださったと、「どきどき」の記事で読みました。
平成二十二年の十一月に登る機会があつて、秋晴れで紅葉もまだ残っている時に六人で縦走しました。滝上、平岩、妙見と、登るにつれて橋立の形が変つていく。最後の題目山に到着すると、宮津湾と一緒に橋立が綺麗に見える絶景! 途中で少し急な登りが二、三箇所あつた。妙見山を過ぎてからは、イヌブナも出てきて楽しい尾根歩き。N.T.Tと関電のアンテナがあり巡視路になつていてすごくいい道がついている。関電のアンテナからは青葉山も綺麗に見え、また大江山連峰から京丹後の山々までぐるりと見渡せる。

この景色を見たとき、これはこのままでは勿体ない、是非いろんな人に見てもらったら多くの人が感動するだろうと、市役所の商工観光課の人たちとも二十三年に歩いた。十一月にツアーが実現



日本の滝百選(京都府で唯一) 金引きの滝

天橋立を、平岩山と題目山から眺めるこのコースは、ほんとに素晴らしい眺めで、いつまで見ても飽きない景色である。宮津の宝をもっともつと宣伝しなくては!
(松本 吉英)

丹後俳諧史こぼれ話 その(六)

丹後地方で、昭和時代(元年から十五年まで)「蜀葵」(たちあおい)という俳誌(主宰・黒田甫夕)が発行されてきた。それは当地方のホトトギス系の俳人の活動の舞台でもあり、ここで力を付けた俳人達は、中央の俳誌「ホトトギス」などに投句して入選することを大きな目標としていました。
当時、畑村(宮津市畑)に、井隼美喜氏という農業と紙漉きを生業とする俳人がいました。彼も「蜀葵」などに投句をする一人であり、彼に俳句の手ほどきをしたのは、下垣鋼二郎(俳号・鋼城)という教師で、将来を期待された新進作家でしたが、残念なことに早逝しました。昭和時代、当地方の俳句の伝播には、鋼城氏のような教師の働きが非常に大きかったように思われます。黒田甫夕氏や三野青芒子(みのせいぼうし)氏など、俳人だった教師が沢山いて、彼等が

子供たち、またその保護者や赴任先へ俳句の種を蒔いたのです。私は、「先生の指導で俳句を始めたよ。昔がなつかしいな」と言われる方に時々出会います。その方々に、思い出話をいろいろ聞かせてもらい、当時の俳人達の動きを調査しています。
さて、畑村で作られた和紙は、良質な製品で世間では評判になっていて、短冊や、色紙などとして求める俳人が沢山訪れたという記録が残っています。
昭和二十七年二月十七日、豊岡出身の俳人京極紀陽氏、峰山の山添つとむ氏が

絶えていると聞きました。惜しいと思うのは私だけでしょうか。
(花谷 道恵)

紙漉き畑で



くんだ見て歩き <中津の巻 その2>



中津のお寺、神宮寺について見てみましょう。神宮寺の本尊は平安時代の十一面観世音菩薩です。市の有形文化財として指定を受けており、頭上に十一の小面をいただく荘厳なお顔立ちをした立派な仏様です。

一般的に観音さんと親しく呼ばれるこの仏の功徳は三十三もの姿に変化して悩める人を救うとされており、中でも十一の顔を持つこの観音はどんな人々をも見のがさず、救いの手を差しのべるとされています。

寺では弘法大師が彫られたと伝え、特に眼病に靈験あらたかとされている

弘法大師はいざ知らず、少なくとも都の仏師の手でつくられたであろうりっぱな仏像が、当地のような田舎に存することに驚きますが、与謝郡誌によると、もとは京都柳谷(現・長岡京市)楊谷寺の本尊でしたが、室町時代に賊により当地にもたらされたという来歴を持ち、地元には『時の城主が山からの帰り道オイオイ泣いている観音さんを見つけた。そこで背負って下るうち重くなって動けなくなつたのでその場所に寺を建てお祀りした』と言ひ伝えられています。

現在の寺名は「護国山神

宮寺」といいますが、丹野府志、与謝郡誌では山号を「中津山」としています。この中津山とは寺の裏山、通称後山のことです。かつて神聖な山として、その一角では青年たちの手によって火祭りの神事がなされていた。これは「まんどろあげ」といって、積み上げた麦わらを燃やし、「雨風いらんどー、日よりくれ祇園どー」と、大声で叫びながら松の枝をかき回して大きな火の粉を巻き上げる、という地元では台風避けの行事として祇園さんの八月二十四日に行われていました。

市史によれば、同様の行事は当地のほか島陰や府

中中野などにもあったといひます。民俗学者柳田国男氏は、「龍王と水の神」という著作の中で、この種の行事は水神・龍王に祈る雨乞いの儀式だとしていますが、当地では変化してしまっていたのでしようか。また、今沢美喜雄氏の著書「天橋立をめぐる謎」に、同山について、神聖な山、行事として記載があり、そういえば子供の頃の山遊びの際、山にある大岩などには「岩さんごーめん」といって避け、決して上つたり、踏んだりせず大事にしていたことを思い出します。(次号につづく) (堀口 州興)

川で異なるメダカの遺伝子

丹後の自然観察日記

近年、メダカが絶滅危惧種に指定されたため、メダカを増やして放流しようという活動が丹後でも拡がりました。

しかし、危惧種に指定されて保護の対象になったのは地域固有の野生メダカであって、ペットショップのメダカや、他地域の放流メダカは対象外です。放流すると、野生メダカの環境を壊します。

あれほどいたメダカが激減したのは、農業の影響だけでなく、冬期に田から水を抜く農法や、水路のU字溝化が大きな原因です。高速道建設に伴い、交差する水路の三面張りやU字溝化も生息環境を減らしました。

新潟大学自然環境科学科

酒泉満教授の研究によると、メダカは流域固有の遺伝子を持っていません。日本他地域では、東北・北陸の日本海側(北日本集団)や山陰地方(山陰型)のような広い範囲で同一型が分布しています。

しかし、但馬・丹後・丹波北部に生息するメダカは、流域ごとに異なる固有の遺伝子を持っており、狭い範囲で特殊な分布をしているのです。(地図参照)

北日本集団と山陰型、この両方の遺伝子を持つハイブリッドIとハイブリッドIIは、全国でも但馬と丹後にしかいません。地図を型別に四色に塗り分けると、不思議な分布が解りやすくなります。

遺伝子型の違いは、外形

では判別できません。野生種が生息する流域に、ショップ系や他流域メダカを放流すると、その地域特有の遺伝子は交雑で失われます。一度失われた固有遺伝子は元に戻すことができません。

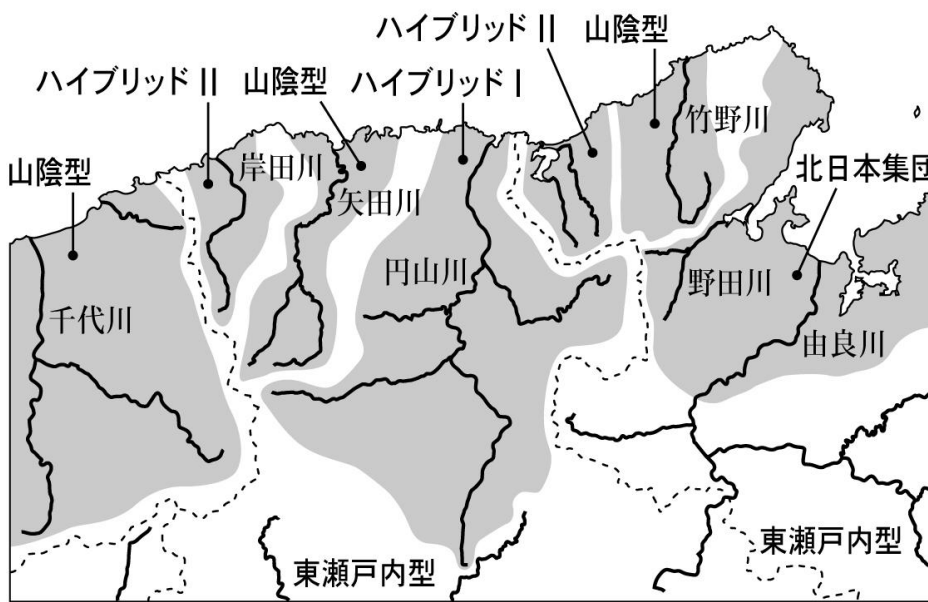
野生と見られる丹後のメダカでも、調べると、ほとんど地域外の遺伝子が入っています。でもまだ、固有遺伝子を持つメダカが少し残っており、これらを流域の環境ごと保護したいと思います。

現代医学や生物分類など、多方面で応用されている遺伝子解析は、野生メダカの遺伝子研究が大きく貢献しました。

固有遺伝子を持つ丹後のメダカの特異な分布は、今後も、生物の進化過程の研究や分布と環境変化の研究など、様々な分野で応用が期待できます。

丹後では現在も、ある生物の新種が発見されたり、絶滅したとみられていた

日本固有種が確認されています。丹後の自然は、海・陸ともに地球規模で貴重なのです。その貴重な温帯酸素の供給地を、廃土の捨て場にしてはいけませんよね。(丹後情報蔵 前野幸夫)



野生メダカの遺伝子分布：由良川上流は、かつて瀬戸内海へ流れていたが、地殻変動で日本海側へ流れるようになったらしい。(酒泉満教授の研究レポートより制図)

宮津のブランド作物！ 栗田の『山の芋』—悩みは高齢化

みやづ おいしんぼ

山の芋は全国で作付けされていますが、栗田地区には明治時代に導入されたと言われています。

栗田地区の気候風土に合って品質の良い芋が生産されるようになり、長い間ショウガと混植されてきました。現在は芋だけの単作となっており、先人の努力により宮津のブランドとして、全国でも有名になっていきます。

山の芋は、昔から慈養強壮があるとされるように、大変栄養に富んでいます。

トロロ汁は勿論、京料理の隠し味に使用されており、高級和菓子やガンモドキにも使用されています。

宮津根菜部会は現在二十五人の部会員で頑張っています。安心安全をテーマに、農業の使用を制限し、消費者の方々に信頼していただくべく、部会員は山の芋の栽培に努力をしています。

出荷は選別して、J Aを

(長田 茂雄)



出荷を待つ山の芋

郷土の画家たち

石倉大鳳画伯小伝

いしくらたいほう

画伯は、明治三十六年(一九〇三)十一月六日生れで、名は譽一良といっ



昭和五年(一九三〇)父の死亡により、家業の菓子製造を守るため帰郷する。

昭和五年(一九三〇)父の死亡により、家業の菓子製造を守るため帰郷する。

(奥谷 安弘)

そして家業の仕事と画業にも精進した。太平洋戦争が始まり、家業の菓子製造は、統制経済により材料が入手出来なくなり廃業となった。

以後、宮津にて画業一筋の生活となり京都日本画家協会会員昭和四十四年には宮津文化賞受賞ユネスコ美術会員鯉の大鳳として世界中に紹介される。個展十数回昭和五十一年三月二十三日に亡くなり智源寺に葬られました。(行年七十四才)